

体験と気づきの場をつくろう!

伊藤 寿賀子さん

私がローカリストとしてリードする、という感じじゃなくて、みなさんがそれぞれに意見をお持ちで、ヒントになることをたくさん聞きました。アドリエ活動は、体験することが一番大事ですし、多くの気づきの場となります。このような場がつくれてよかったです。地域の自然や特色をいかし、それぞのフィールドで活動してほしいですね。



01

つながりが、アイデアの素

稻田 諭さん

アカデミーでいろいろな人とお会いでき、僕自身、吸収できたことがたくさんありました。「フードロス」について様々な視点からアイデアをもらい、有意義な時間となりました。ネクストローカリストたちは、すでに各々の分野で活躍されているので、アカデミーやお試し地域活動を通して、横のつながりができ、新しいアイデアが生まれる素になりますね。



02

ひとりで走らず、想いを伝えよう!

岩永 清邦さん

人の繋がりは財産です。何かやりたいと思ったら、ひとりで走るよりも、いかに色々な人と一緒にやっていくか?が大事。そのための第一歩は、自分がやりたいことを人に伝えること。まさしく言葉ですね。自分たちだけでやろうとせず、常に多方面からの知恵や情報をいかす姿勢は、自身の成長にもつながると思っています。



03

地域資源を普段使いしよう!

川崎 康広さん

佐賀の街中でクリークを使って他の街にはない魅力を楽しんではいい。そのためには、大規模なイベントではなく、「クリークの普段使い」を気軽に体験できる催しを、少しずつ定期的に続けていくことが、この街に脈 wijをもたらしてくれる信じています。街中にクリークに近づく仕掛けをつぶつて活用することで、水辺に人が集い、豊かな時間をつくることができました。



04

五感を刺激して楽しむ!

北川 健太さん

まずは「嬉野茶時」を知ってほしいと体験ツアーを企画しました。私にとって地域活動とは、自分たちが感動できること、楽しめることを突き詰めていくこと。歴史や文化とともに、堅苦しく感じられるが、その中に飛び込んでみると、意外と面白いことや楽しいことが眠っています。これからも五感が刺激される活動に取り組んでいきたいですね。



05

イカした人生のタネをまこう!

鳥谷 憲樹さん

「佐賀に帰っておいで」とただ言うだけでは、優秀な人材が戻ってきません。戻る人たちの不安は、仕事のこと、生活のことなど様々です。実際に佐賀にUターンし成功している人の話を、高校生のうちに聞いておると、先々、人生経験を積み、イカした大人になって佐賀に帰ってくるかもしれません。そのベースづくりができたら…と思っています。



06

ゼロをイチにする技?

中林 正太さん

ユニークなアイデアは、グループ活動の賜物です。それぞれの得意分野を生かして協力しあうことは、とても大切です。春日地区のいいところを知ってもらい、おもてなしをしたらうれしい。これから地域づくり活動をしようと思っている人は、実際に活動をしている人と一緒にやってみたらいいですよ。0→1にする感覚は一緒にやったらつかれます。



07

自分を肯定することが第一歩!

永松 良太さん

誰一人欠けても今日の成功はありません。それが地域活動ではないでしょうか。流鏑馬が復活したことでの役割は一区切りして、今は、次の世代に繋ぐ仕組みづくりをどうするかです。次の世代のみなさんは、ぜひ、素敵な思い込みをして自分を信じてほしいですね。何かを成し遂げるとき、まずは自分を肯定することが実現の第一歩だと思っています。



08

鉄則は、手放し・見守る!

古川 久美子さん

「あかちゃんハイハイレース」は企画から募集、実行までネクストローカリストにまかせました。いつでも相談してもらえる関係を築いたら、手放し・見守るのが私の鉄則。主催者はたいへんなことですが、失敗も成功もいい経験。自分たちでやれば、達成感も喜びも大きく次のエネルギーにつながっていきますからね。



09

人が繋がり、元気になる場所!

本間 昭久さん

都市部と山間部の交流を増やしたい。そこから将来的には、移住や何らかの活動に繋がっていけたとの想いで企画しています。お試し地域づくり活動では、自然の中でイキイキとしているネクストローカリストの表情を見て「食べ物をつくるだけでなく、人が繋がり、元気になる場所をつくりたい」という方向性を再確認することが出来ました!



10

人を幸せにする魔法!

森永 一紀さん

地元のために何かやりたいと考えている人は多いと思う。僕自身は、何かをやるとき、想いがないと熱量があがらない。さらに、やって自分が楽しくないと!いかん。これまでひとりで家々を回ってお菓子を配っていたが、今回は地元の強力なメンバーと一緒に。楽しかったな~!何気なくやっていることが人を幸せにするって最高じゃないですか。



11

遠くにいても繋がるしあけ!

山口 一生さん

太良町に住んでいると、牡蠣や螺を食べる事は珍しいことではないが、実はすごいことで、冬場は人がたくさん来てくれます。歴史的なスポットも点在しているので、通年で多くの人が太良町に来てくれるらしいですね。移住しなくてもいいので、いつも「太良」を感じてもらえるような、遠くにいても繋がっているようなしあけを練っていきたいですね。



12

NEXT Localist VOICE

「お試し地域づくり活動」を通して地域づくりを体験した「NEXT ローカリスト」の今後の活躍を期待しています。



今後は、古民家再生プロジェクトにも携わっていく予定です

久保 良介さん

人々、地域創生に興味があって勉強会などに参加していました。今回、「吹米の旅行客を佐賀に呼び込む」というテーマだったので、知り合いの外国人などに色々とリサーチしてみて、日本人と魅せ方の違いなど様々な発見がありましたね。現在は、小城市を中心で佐賀県全体で外国人受け入れのための事業に従事しています。今後は、古民家再生プロジェクトにも携わっていく予定です。



今後は、江北で頑張っているお店が活性化するような取り組みに携わってみたいですね

赤坂 美晴さん

人々、地域おこしに興味があって永松さんのことを知り、いつかお会いしたいと願っていました。今回実現しました。「こども流鏑馬」をお手伝いでみて、予想よりお客様も很多く、「わあー!」って歓声があがつたり!地元の知らなかつ一面を見る事ができました。今後は、江北で頑張っているお店が活性化するような取り組みに携わってみたいですね。



今後は、地域活動を通して、社会貢献に繋がれば嬉しいですね

篠原 康太さん

佐賀のことをもっと知りたい、未経験なことに挑戦したいという好奇心から参加しました。全く経験がない自分で、その場に居ることで何気なく発した意見を「いいね!」と採用してもらったり。誰かの役に立てる喜びを感じました。地域活動を通して、自分自身の引き出しを増やしつつ、社会貢献に繋がれば嬉しいですね。

地域を活かし佐賀をつくる

SAGA Localist CLIP 2019

ローカリストが掲げた「地域の課題」と一緒に解決したい!
ネクストローカリストたちが動き始めた。



12



◎お姫さま道中＆赤ちゃんハイハイレース@小城・秋のさくらまつり (09)



10

お試し地域づくり活動

地域づくり活動に興味を抱き、活動を始めるきっかけとなる場「SAGAローカリストアカデミー」(佐賀県主催)が、平成30年9月29日(土)・10月13日(土)の両日、開催されました。

地域づくり活動に興味・関心のある参加者「ネクストローカリスト」たちが、既に県内で活動を実践している12人の志士たち「ローリスト」の実践例を知るとともに、活動の悩みや夢実現への苦労などを語り合いました。

このアカデミーの開催を機に、同じ志をもつ同世代とのつながりもでき、ローカリスト達がネクストローカリスト達の意見やアイデアを取り入れることで新たな視点が生まれるなど様々な化学反応が起きています。

そして、ローカリストたちが掲げた課題と一緒に解決するファーストステップを「お試し地域づくり活動」と名付けました。さらにパワーアップした12人のローカリストとネクストローカリストによるその後の活動をおつたみました。



◎おそとでこたつ in haruhi (07)



◎「フードロスをなくすためには?」討論会 (02)



05

◎絶景茶畠の茶室見学＆旅館大村屋で「The Tea Salon」体験



◎ピッキーふれあい祭り2018 長崎街道小田宿 こども流鏑馬 (08)



・活動日 2018年11月17日 唐津市
こんなアトリエ活動を自分の地元でもやってみたい!

◎お試しアトリエ活動＆ディスカッション

「スゴイ子どもを発掘しよう」をテーマに、伊藤寿賀子さんが地元で取り組んでいたteraccoという子ども向けのアトリエ活動を実体験した後、大人だけでディスカッションをする、という活動が11月17日、アトリエのあるteraccoで行われた。前川憲大さんは、「子どもたちが自分でやりたいことを決めて集中して遊んでいますね。出張みたいなスタイルで、子どもがこういう体験ができる場をつくりていきたい」と展望を話した。ディスカッションでは、「スゴイ子どもって?」という観点から話を深堀りされた。唐津には虹の松原に行くと自然の松ぼっくりに触れる環境にあるが、それぞれの地域にある自然や特色を活かし「子どもが自分で考えて遊ぶ」環境がつくれるという各人の気づきの場になったようだ。

01 OHACCO 代表
伊藤 寿賀子さん



・活動日 2018年11月27日 佐賀市
フードロスを活かして循環していこう!

◎「フードロスをなくすためには?」討論会

稲田諭さんが掲げるテーマの一つ「フードロス」に視点を絞り討論会が11月27日、佐賀市商ビルの会議室で行われた。パティスリー(洋菓子店)のオーナーや農家、学校関係者や化粧品企画など、異業種のメンバーが参加した。討論会では、フードロスの仕組みやこれまでの取り組み、課題などについて稲田さんから説明がなされた後に、各業種ごとの意見やアイデアが出され、今後の方向性について議論を深めた。西九州大学で学生の地域活動をコーディネートする横尾仁美さんは、ローカリストのように想いを持った方と直接お会いして交流ができる場は大変貴重でした。学生たちの活動にも活かしていきたいと思っています」と振り返った。

02 Raspberry Works 代表
稲田 諭さん



・活動日 2018年11月3日、2019年1月27日 嬉野市
春日の豊かな自然を活かして地域を巻き込むイベントを!

◎「おそとでこたつin haruhi」にむけた散策

ローカリストアカデミーでは春先に「春日の自然に囲まれてお昼寝をしよう」という企画の卵が産まれたこと。これを機に11月3日、4人のネクストローカリストと共にお昼寝スポットを求めて分校カフェ周辺を歩きまわった。そこで、「春まで待てない」という声が多くあがり、分校カフェharuhiのグラウンドに柵を設置し「おそとでこたつin haruhi」を開催することに。あんこスイーツ店を営む岡垣憲さんは「イベントであんこスイーツも出そう」という話で盛り上がりました。「人と人がつながることで、アイデアが広がり面白かったです」と話していた。1月27日のイベント当日は、温かいぜんざいや地元の人たちがつくった料理、マルシェが出店され、人のぬくもりにあふれていた。

07 分校Cafe haruhi 代表
中林 正太さん



・活動日 2018年11月4日 江北町
江北の伝統を子どもたちの勇姿が今に繋げる!

◎ピッキーふれあい祭り2018 長崎街道小田宿 こども流鏑馬

江北町に古くから伝わる天子社流鏑馬は、ローカリスト永松良太さん、そして地域の方々の尽力により、144年ぶりに「こども流鏑馬」として2014年に復活。今年もクラブリオの「看板馬」はじめ、馬具や弓道具の製作者など、様々な特技を持つ江北の方々の協力と行動により開催された。小学生による「こども流鏑馬」は、今回初めて江戸時代に行われていた場所と同じである旧天子社参道にて披露。アスファルトの上を馬が走ることはできないものの、矢が的を射る乾いた音が響くと、沢山の歓声と拍手が湧き起こっていた。写真撮影や物販などをサポートに従事したネクストローカリスト。「地元がこれだけ賑わっていることに胸が一杯になった」と新たな故郷愛が育まれたようです。

08 馬との居場所 CLUB RIO 代表
永松 良太さん



・活動日 2018年11月17日 佐賀市

佐賀を世界各国と国際交流ができる街へ!

◎異国交流会で語り合おう(欧米編)

国際交流ができる街・佐賀を目指して、ゲストハウスhagakureの運営など多彩な活動を手掛けるローカリスト岩永清邦さん。佐賀在住の欧米人を招き、ネクストローカリストを交えた参加者と「どうすれば欧米の旅行客を佐賀に呼び込めるか」をテーマに意見交換会を実施した。フレンチな雰囲気でディスカッションが進むなか、「ストーリー性のある体験型イベントの企画」が決定。今後、佐賀在住外国人やhagakure宿泊者を交え、実施に向けて取り組んでいく。参加したネクストローカリストたちも、「豊かな自然や美味しい食べ物、歴史的文化など、佐賀の魅力を世界各国の人たちと共有したい!」というイメージの現実化に期待感を高めていた。

03 ゲストハウス HAGAKURE 代表
岩永 清邦さん



・活動日 2018年11月17日 佐賀市

クリークの豊かさと地域の方々に感謝を込めて!

◎ネクストローカリスト&クリークネットメンバーで意見交換会

「水の街・佐賀」として、クリークを暮らしや遊び、観光に活かすべく、多彩な活動に取り組むローカリスト川崎康広さん。12月初旬、川崎さんの呼びかけにより、ネクストローカリストとクリークネットメンバーによる意見交換会が開催された。その中で、維新博覧会の終了に伴ってオランダハウス横の桟橋の撤去が決定しているものの、「何とか存続できないか」との提起があり、継続案件として取り組んでいくことに。また、同日に決定した企画として、12月29日、地域の方々に感謝を込めて「餅つきとお餅のふるまい」を開催し「街に水辺があり、人が集まるこの豊かさを実感した」と語るネクストローカリスト。今後も佐賀に“在る”を魅力を活かす人たちが増えしていくだろう。

04 株式会社川崎空間研究所 代表取締役
川崎 康広さん



・活動日 2018年12月27日 武雄市

優秀な人間に地元に帰ってきてほしい…。
◎武雄にいた大人を増やしたい

「武雄の山内にもっといた大人を増やしたい」。鳥谷憲樹さんの掲げたテーマを元に、グループメール上でやりとりが交わされる中、学生がいかれた大人と触れるイベント開催することにした。12月27日、武雄市立図書館でのミーティングには3人のネクストローカリストが駆け付けた。対象を高校生に絞り、地元で暮らしている時に地元で活躍している大人の話に触れて、人生をプラン立てできるようなイベントをする方向性で話が固まった。ネクストローカリストの井上祐希さんは「高校生のうちにいろいろな分野で活躍する人たちと出会って話を聞く機会をつくってあげることはとても価値があることだと思います」と話し、これから企画と一緒に作り上げていく。本番の開催は3月ごろの予定。

06 trattoriYa Mimasakaオーナー
鳥谷 憲樹さん



・活動日 2018年12月15日 嬉野市

嬉野の魅力+新しい愉しみ方=大きなポテンシャルに!

◎絶景茶畠の茶室見学&旅館大村屋で『The Tea Salon』体験

嬉野温泉、肥前吉田焼、嬉野茶の三大産業を新たな視点で発信しているローカリスト北川健太さん。冬晴れの日に集まったネクストローカリストらは、北川さんの案内のと、「嬉野茶時休感ツアーア」に出発した。知る人ぞ知る山道を抜けると現れる森の中の茶室。竹造りの野外茶室は静けさと限りなく清い空気が漂い、ネクストローカリストからも「ヨガや星空鑑賞にも使えそう!」など、多彩なアイディアが飛び交っていた。旅館大村屋での『The Tea Salon』体験では、茶師による嬉野茶と甘味のマリエージュを堪能。「嬉野茶と佐賀の食材を掛け合わせたフレーバーティーの開発はどうか?」など、体験を得たからこそ新しい発想に可能性を感じる一日となった。

05 旅館大村屋 15代目
北川 健太さん



・活動日 2018年11月3日 小城市

小城鍋島藩邸のお庭で姫たちと想い出づくり!

◎お姫さま道中&赤ちゃんハイハイレース

小城市的新イベント「秋のさくらまつり」が11月3日小城公園で開催された。会場では、ローカリスト古川久美子さんとネクストローカリストの企画による「あかちゃんハイハイレース」が行われ、21組の親子連れが参加。様々な「赤ちゃん模様」が愛らしく、思わず立ち止まる見物客もちらほら…。ネクストローカリストは司会を担当し、スタート時に赤ちゃんの好きな食べ物や遊びを紹介したり、レース展開を実況したりと、一瞬の成長を喜び合うひとときを盛り上げていた。子育て中のママでもあるネクストローカリストの一人は、「楽しんでいたら人は寄ってくる。今後は教育関連の地域活動に携わっていきたい」と、確かな手応えと喜びを実感したようだ。

09 小城鍋島家 Ten 代表
古川 久美子さん



・活動日 2018年11月4日 神埼市

自然・人との“実交流”だから体感できるワクワクを!

◎背振 本間農園で秋の味覚を味わう。

木々も紅葉始める秋の背振山。その中腹にある本間農園で、ローカリスト本間昭久さんによるお試し地域づくり活動の序章として、農作業体験が開催された。山々に、鶴さんたちの元気な鳴き声が響くと、親子で参加したネクストローカリストのなかには、「息子がニワトリの鳴き声を初めて聞いたと言ってびっくりした!」という声も。無農薬のサツマイモを収穫し、親鳥やサツマイモなどを炭火で調理。秋の恵みを味わいながら、「里山の交流を活性化するには?」をテーマに、活発な意見交換が行われた。次回は、本間さんとネクストローカリストを交えて、農園内にある小屋をリノベーションすることが決定。「いつでも泊りがけで遊べるスペースを造ろう」と企画中だ。

10 本間農園 代表
本間 昭久さん



・活動日 2018年12月17日、23日、2019年1月12日 伊万里市

なにげなくやっていることが人を幸せにする!

◎伊万里サンタプロジェクト

ここ数年、クリスマスにはサンタ姿になって知り合いの子どもの家のを訪問する活動を続けていた森永一紀さん。今回は、地元有志に話を持ち掛け、松浦鉄道の列車に乗車して有田、松浦から伊万里入りし、伊万里駅でお菓子を配るという大きなイベントを企画した。12月17日、伊万里市内で話し合いが行われ、このイベントをネクストローカリストと一緒に実行する。牡蠣や蟹。まずは、ご当地グルメで太良を感じよう。牡蠣焼き小屋で有名海を眺めながら海の幸を堪能、実際に現地に赴くことで、意外と若年層の来訪が多いと気づきを得た。次に向かった竹崎觀世音寺では、住職に話を聞いて、太良の歴史に触れた。参加した西村幸代さんは「実際に太良で牡蠣を食べたのは初めて。歴史を知ることもでき、実際に太良に来て感じることに価値があると思いました」と感想を述べた。

11 地域活動団体「GOLD U-35」代表
森永 一紀さん



・活動日 2018年12月29日 太良町

仮に住んでいなくても太良を感じていてほしい!

◎「太良いぢり」で太良と向き合う

ローカリストアカデミーで繋がった人々と情報交換するために山口一生さんが立ち上げたSNSグループの名前は「太良いぢり」。このメンバーに声をかけ、12月29日、「太良を体感する会」が開催され、2人のネクストローカリストが参加した。太良の食といえば、牡蠣や蟹。まずは、ご当地グルメで太良を感じよう。牡蠣焼き小屋で有名海を眺めながら海の幸を堪能、実際に現地に赴くことで、意外と若年層の来訪が多いと気づきを得た。次に向かった竹崎觀世音寺では、住職に話を聞いて、太良の歴史に触れた。参加した西村幸代さんは「実際に太良で牡蠣を食べたのは初めて。歴史を知ることもでき、実際に太良に来て感じることに価値があると思いました」と感想を述べた。

12 一般社団法人「太良と生きる」理事長
山口 一生さん